

燃料費及び CO₂ 対策経費について

山名委員ご意見

- 化石燃料価格についての見通しについては、IEA の予測をベースにする事は妥当であると思います。一方で、世界平均で見たコストと、日本の特異性についての見解の違いについても認識が必要です。特に、天然ガスは、我が国は、18%をオーストラリアから、20%をマレーシアから輸入し、他の部分は、UAE やオマーンなど他地域から分散して入手していますが、これらの輸入先からの入手が今後、先細りすると見られています。従って、現在12%を輸入しているカタールなどへの依存性が増えて行く事は必至ですが、液化天然ガスとしてしか輸入できない我が国は、同じく、液化天然ガスとしてしての輸入を検討している中国やドイツなどとの競合にもなり得るため、価格の安定性が見通せないというのが実情です。世界平均のコストをベースにするとしても、我が国の、液化天然ガスの入手の特殊性については念頭に置いておく必要があります。

- 炭素価格の件ですが、排出権の世界的な動向を調査して、EU の政策シナリオを基本にする事については、やむを得ないものと思います。一方、我が国は、1990年比で25%削減という厳しい目標を設定しており、この事は、真水での削減を本来目指すという国是でもあります。2020年に至って、排出権で二酸化炭素の削減を果たすという事では、明らかに行動不足であり、排出権価格が、そのまま火力発電のコストであるとするのは、炭素削減の価値を軽視する事にも繋がります。排出権価格による炭素ペナルティの設定は、あくまで、現時点でコスト換算の手法がそれ以外に想定出来ない事によるものである事は念頭に置く必要があります。CCS は我が国では非常に難しいという技術的見解もある中で、本来は、火力発電を削減して行く事が必要ですから、その事は付記する必要があります。